

平成28年度

南陽市中学生



地域間交流セミナー

報告書



南陽市教育委員会

はじめに

南陽市教育委員会 学校教育課長 板垣 健

1月19日（木）吐く息も白い氷点下の冷たい空気の中、保護者、各学校関係者の温かい見送りに応え、手を振りながら南陽市役所を出発しました。約6時間後に到着した那覇空港は気温が20℃を超え、私たちは連絡通路に流れる1月のクーラーの風に驚きと心地よさを感じました。

前年度から実施された南陽市中中学生地域間交流セミナー事業。2回目の今回は天候に恵まれ、計画通りの日程で実施することができました。昨年度の実績を踏まえ、今年度は詳しい説明を受けたりじっくり丁寧に見学したりすることができるようそれぞれの見学場所の見学時間を長く設定するとともに、途中、生徒同士の感想交流の時間も設けました。糸満市を訪問し、歴史・文化・生活等に直接触れる貴重な機会においては、五感を通して得られる様々な情報を“知識として覚える”のではなく、情報を理解した上で“心で感じる・頭で考える”ことを重視したためです。

糸満市から戻ってからの事後研修会では、地元中学生との友好的な交流と民泊家族との心温まる触れ合い等を通して「糸満市の人々の温かさ・優しさ」に強く心打たれたとの感想が多く出されました。沖縄県には昔から伝わる黄金言葉くがにことばの一つに「一度出会ったらみな兄弟」という意味の“いちゃりばちよーでー”という方言があることを教えてもらいました。実際、兼城中学校の生徒たちも民泊でお世話になった方々も、初対面にもかかわらず私たちをその場で直ぐに受け入れてくださり、温かい心遣いに瞬時に緊張が解けました。お別れの際には、別れを惜しんでバスが見えなくなるまで手を振ってくださいました。住む所は違っても、“いちゃりばちよーでー”の精神は生徒たちの心の中で大きく成長し、これからの人生において確かな道標になることでしょう。

また、こうした「人の温かさ・優しさ」の起源の一つは、住民を巻き込み20万人を超える尊い命が奪われた日本で唯一の地上戦を経験したことにあるのではないかと生徒たちは考えました。砲爆撃や火炎放射器などによる殺戮ばかりか、日本兵による住民虐殺、集団自決や餓死など、極限状態を超えた想像を絶する経験から、敵も味方も無い、人間の尊厳を最も大切に作る確固たる精神が生まれてきたのではないかと推測したのです。そして、何不自由ない平和な日常生活を送ることができる私たちが今大切にすべきことは、自他の立場を尊重し、多様な人々と協働しながら課題を解決しようとする姿勢であり、具体的には卑劣な行為である「いじめ」を許さないという倫理観を持った行動をとることであると改めて確認しました。

4回の事前研修会、2泊3日の糸満市訪問、そして事後研修会。本事業を通して生徒たちは、12名の集団として、また12名の個人として、その時々に関われる大小様々な課題に対し、各自が内なる緊張と勇気の葛藤を繰り返しながら、自らの意志により対象に関わる経験を積み重ねました。こうした貴重な経験と様々な方々との生きた交流を通して感じ・考えたことが、今後の新たな経験の中で更なる進化を遂げ、より広い視野を持った社会人に成長することを期待します。

最後になりましたが、本交流セミナー事業を実施するに当たり、市内各中学校の校長先生を始めとする各中学校の先生方、特に事前研修会から熱心にご指導いただきました南陽市立宮内中学校 教諭 佐藤陽子 様、社会教育課 主事 小下圭介 様、JTB プラネット 取締役社長 佐々木 俊 様に感謝申し上げるとともに、今年度も訪問団を快く受け入れていただきました糸満市教育委員会、糸満市立兼城中学校、糸満市観光協会、民泊家庭の方々、その他多くの関係する皆様方のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

目次

○はじめに	南陽市教育委員会学校教育課長 板垣 健	1
○目次		2
○南陽市中学生地域間交流セミナー参加者名簿		3
○南陽市中学生地域間交流セミナー実施要項		4
○保護者説明会資料		7
○事前学習会資料	第1回目	1 0
	第2回目	1 4
	第3回目	1 6
	第4回目	1 9
○南陽市中学生地域間交流セミナー結団式資料		2 3
○事後研修会資料		2 4
○セミナーを振り返って		2 5
○「いちゃりばちょーで一」の心	南陽市立宮内中学校 教諭 佐藤 陽子	3 9
○アルバム		4 0

平成28年度 南陽市中学生地域間交流セミナー 参加者名簿

No	氏名	性別	学 校	
1		女	南陽市立沖郷中学校	
2		女	南陽市立沖郷中学校	
3		女	南陽市立赤湯中学校	
4		女	南陽市立赤湯中学校	
5		女	南陽市立赤湯中学校	
6		男	南陽市立赤湯中学校	
7		男	南陽市立赤湯中学校	
8		男	南陽市立宮内中学校	
9		男	南陽市立宮内中学校	
10		男	南陽市立宮内中学校	
11		男	南陽市立宮内中学校	
12		女	南陽市立宮内中学校	

※ 引率予定者名簿

No	氏名	性別	所属・職
1	板 垣 健	男	南陽市教育委員会学校教育課長
2	佐藤 陽子	女	南陽市立宮内中学校教諭
3	矢野 斉	男	南陽市教育委員会指導主査
4	佐々木 俊	男	JTB プラネット取締役社長

平成28年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事業 実施要項

1 目 的

本セミナーは、中学校2年生を対象に、南陽市と異なる歴史や文化等を有する特色のある地域との交流事業を通して、南陽市を外から見つめ直し、地域創生に向けた愛郷心を醸成すると共に、将来の南陽市を担う自立した人材を育成することを目的とする。

2 行 き 先

沖縄県糸満市

3 期 日

平成29年 1 月19日(木)～1月21日(土) 2泊3日

4 対 象

南陽市内中学校の2年生 *教育委員会引率と旅行添乗員が全日同行

5 募集定員

12名

6 研修内容

- 1) 史跡等の見学や民泊を通して、沖縄特有の文化や風習等に触れるとともに平和について考える。
- 2) 現地中学生との交流を通して、自己の地域に対する考え方を深める。
- 3) 事前・事後の学習において、他校の中学生との主体的・協同的な学びを通して、多面的・多角的な見方や考え方を育成する。

7 日程概要(予定)

月日	地名	時間	研 修 内 容
H29 1/19 (木)	南陽市	7:30	南陽市役所集合・出発 ※ バスで移動
	仙台	11:00	仙台空港着
		11:55	仙台空港発 ※ 飛行機
	沖縄 糸満市	14:55	那覇空港着
		15:30	那覇空港発 ※ バスで移動
		16:10	首里城公園 着 全員で視察
		17:30	首里城公園 発 ※ バスで移動
		18:00	サザンビーチホテル&リゾート沖縄 着 チェックイン 宿泊
		19:00	夕食
		20:00	ミーティング(ふり返りと予習)
		22:00	就寝
1/20 (金)	沖縄 糸満市	6:00	起床
		7:00	朝食
		8:30	サザンビーチホテル&リゾート沖縄 発 チェックアウト ※ バスで移動
			◎史跡等の見学 轟壕～山形の塔～平和祈念公園～琉球ガラス村～

		15:00	糸満市内の中学校 着 【現地中学生との交流】
		16:30	糸満市内の中学校 発
		17:00	糸満市観光協会 着
		17:30	ホストファミリー宅へ移動 糸満市に民泊
1/21 (土)	沖縄 糸満市	9:00	ホストファミリー宅発
		9:30	糸満市観光協会 着 【お別れの会】
		10:00	糸満市観光協会 発 ※ バスで移動
		10:30	国際通り 牧志公設市場 着
	仙台		【 昼食・お買い物 】
		12:30	国際通り 発
		13:15	那覇空港 着
		14:15	那覇空港 発
	南陽市		※ 飛行機
		16:50	仙台空港 着
		17:30	仙台空港 発
			※ バスで移動
		20:00	市役所到着
		20:15	解散

8 参加費用 研修に要する費用(交通費・宿泊費・ガイド料等)は、予算の範囲内において、市が負担する。

9 応募資格 次の要件を満たしているものとする

- ① 本人が積極的に参加を希望していること
- ② 充実した研修ができる健康状態であること
- ③ 保護者の承諾が得られていること
- ④ 事前事後の学習会に必ず参加できること。

10 応募方法 希望者は、次の提出書類(様式1～3)に必要事項を記入し、直接または郵送で提出する。

- ① 参加申込書(様式1)
健康確認書欄に健康状態が良好であることの証明を所属の中学校長から受けること。
- ② 作文用紙(様式2)
テーマ『私たちの住む南陽市の将来に向けた、私の思い』(原稿用紙 800 字以内)
- ③ 保護者の同意書(様式3)

11 応募期間 平成 28 年 10 月 25 日(火)～11 月 9 日(水)
締切 11 月 9 日(水) 午後5時 必着 ※郵送の場合は、南陽市教育委員会に当日必着

12 参加者の選抜 ◎応募書類による書類選抜及び面接により選抜する。

13 面接について

- ① 日 時 平成 28 年 11 月 19 日(土) 午前9時より
- ② 場 所 えくぼプラザ
- ③ その他 申込者多数の場合、応募書類による一次選抜を行う場合がある。
詳細は後日、面接該当者に直接通知する。

14 参加者の決定 ◎申込者全員に選抜の結果を直接通知する。

15 研修前の準備 ◎参加者には、研修前の事前研修会(4回予定)及び保護者説明会を実施する。

16 参加者決定からセミナーまでのスケジュール(予定)

平成28年11月19日(土)	面接選考試験 ⇒ 11/25(金)合格者通知発送
平成28年12月 5日(月)19:00～	参加者・保護者説明会
平成28年12月10日(土)AM	事前研修会① 南陽市役所 403 会議室
平成28年12月24日(土)AM	事前研修会② 南陽市役所 大会議室
平成28年12月27日(火)AM	事前研修会③ 南陽市役所 大会議室
平成29年 1月 7日(土)AM	事前研修会④ 南陽市役所 大会議室
平成29年 1月16日(月)19:00～	結団式 南陽市役所 大会議室
平成29年 1月19日(木) ～1月21日(土)	本研修
平成29年 1月28日(土)AM	事後研修会 南陽市役所 大会議室

17 研修後の報告 ◎各学校の報告会を設定したり、感想文集としてまとめたりする。

18 申込み・問い合わせ先

南陽市中学生地域間交流セミナー事業実行委員会
【事務局】 南陽市教育委員会 学校教育課 指導係
〒999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地の1
TEL:0238-40-3211 Fax:0238-40-3388
E-mail: yanoht@city.nanyo.yamagata.jp

平成28年度 南陽市中学生地域間交流セミナー参加者事前説明会

日 時 平成28年12月5日(月)19:00～

場 所 市役所 大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 あいさつ

・ 南陽市教育委員会 学校教育課長 板 垣 健

3 参会者の紹介(自己紹介)

・ セミナー参加者 ・ 引率者 ・ 事務局



4 説 明

- (1) 平成28年度南陽市中学生地域間交流セミナーの概要
- (2) 平成28年度南陽市中学生地域間交流セミナーまでに準備すること
- (3) 今後の日程
- (4) その他

4 質 疑

5 その他

6 閉 会





地域間交流セミナーの目的

- ・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う **自立した人材の育成**

◎自立した人材・・・

- ・ 自分の進む道を自分の意志で決めることができる。
- ・ 広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができる。

◇ 南陽市中学生としての学びを**発信**する！

そのために・・・

南陽市と異なる歴史や文化等をもつ
特色のある地域と**交流**する。

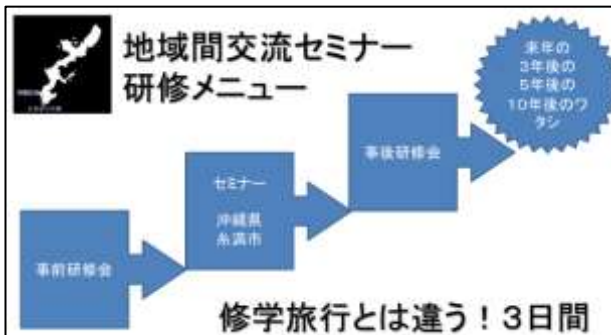


大事なことは・・・



研修メニュー

- ・ 沖縄特有の文化や風習に触れる。
→ 民泊・史跡等の見学
- ・ 地域(南陽市)に対する考え方を深める。
→ 現地の中学生との交流
- ・ 多面的、多角的な見方・考え方を身に付ける。
→ 事前・事後の研修



1日目 1月19日(木)
7:30 南陽市役所出発

↓

11:55 仙台空港発

↓

15:10 那覇空港着

↓

16:40 首里城公園

↓

18:15 サザンビーチホテル&リゾート沖縄



2日目 1月20日(金)
8:30 ホテルチェックアウト

↓

史跡見学 森塚・山形の塚・平和祈念公園

↓

14:45 糸満市内の中学校

↓

※15:00 『交流会』

17:00 対面式

↓

17:30 ホストファミリー宅へ移動



- ★パーランクー作り
沖縄のエイサーや民謡節踊りで使用される手持ちの太鼓をダンボールで作ります。表紙に絵を描いて自分だけのパーランクーを作ります。
- ★ヤーターアンドン作り
沖縄風の揚げ菓子の一種で、生地を作るところから油で揚げるところまで体験をします。
- ★ムービー作り
沖縄で食される菓子の一種で月夜の園で舞った餅を蒸し器で蒸して作ります。健康長寿の祈願のための縁起物のもちもち「ムービー」です。
- ★三銃器
沖縄の文化の象徴「さんしん」という単語でチェューチョップ、キタキタを演習します。
- ★フォトフレーム作り
近くの海で拾ってきた貝殻、琉球ガラスを使って写真立てを作ります。



3日目 1月23日(土)

9:00 **ホストファミリー宅 発**

9:30 お別れの会(観光協会)

↓

10:30 国際通り・牧志公設市場

↓

13:15 那覇空港

↓

16:45 仙台空港 着

→ 20:30 南陽市役所 着



事前・事後研修会

12月10日(土)午前 顔合わせ・沖縄を知る
12月24日(土)午前 交流会に向けて
12月27日(火)午前 交流会の成功に向けて
1月 7日(土)午前 交流会のリハーサル
1月28日(土)午前 事後研修会



セミナーまで準備すること



- ・体調を整える。
- ・日常の授業をしっかりと！
※ セミナーは、“学び”をフルに使う場
- ・糸満の中学校との交流の準備 → ♪宿題
※ 伝えたいこと、知りたいこと、比べたいこと……
- ・具体的持ち物等の準備

着替えは？ 履物は？ 記録するものは？ お小遣いは？ グループは？
ホストファミリーは？ 一人？……

平成28年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会

日 時 平成28年12月10日(土)9:30～

場 所 南陽市役所403会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

- ・ 南陽市教育委員会 学校教育課長 板 垣 健

3 研修

(1) 本日のねらいの確認

- ① 地域間交流セミナー参加者同士のコミュニケーションを図り、仲間意識を醸成する。
- ② 地域間交流セミナーで学ぶこと、自らの目的意識を確認する。



(2) ワークⅠ 『沖縄・糸満市を知ろう。』

- ・ 講話 社会教育課主事 小下 圭介
- ・ 質疑・意見交換
- ・ ……………休憩……………



(3) ワークⅡ 『仲間を仲間に紹介しよう。』

- ・ 3人のグループをつくる。
- ・ 誰が誰を紹介するか決める。
- ・ 質問し合って、仲間の良さを掘りおこす。
- ・ 3人で1人ずつの“紹介ポップ”を決める。
- ・ 紹介し合う(1人1分×3人=3分程度 → × 4グループ=(約15分)
- ※ 仲間の良さを発見しよう。

(4) ワークⅢ 『セミナーで学ぶことを、自らの目的意識を確かめる。』

- ・ これができたら、“目的達成”という自分のハードルを言葉にする。

(5) シェアリング

4 その他

5 閉 会



沖縄ってどんなところ？

- 琉球王国(1429年～1879年)



沖縄ってどんなところ？

- 太平洋戦争での激戦地(住民を巻き込んだ戦闘)



沖縄ってどんなところ？

- 本土とは異なる食文化



HOPE(ホープ)



沖縄ってどんなところ？

- 空手(唐手)の発祥の地→大正時代に本土で普及し現在に至る



沖縄ってどんなところ？

- アメリカ統治(1945年～1972年)



青年交流のきっかけ



全国青年まちづくりフォーラムin南陽 平成23年9月18-19日



地域間交流セミナーの目的

- ・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う
自立した人材の育成
- ◎ 自立した人材・・・
- ・ 自分の進む道を自分の意志で決めることができる。
- ・ 広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができる。
- ◇ 南陽市中学生としての学びを発信する！

研修メニュー

- ・ 沖縄特有の文化や風習に触れる。
→ 民泊・史跡等の見学
- ・ 地域(南陽市)に対する考え方を深める。
→ 現地の中学生との交流
- ・ 多面的、多角的な見方・考え方を身に付ける。
→ 事前・事後の研修

ワークⅠ 『沖縄・糸満市を知ろう。』

【講話から……】

ワークⅡ 『仲間を仲間に紹介しよう。』

チーム

メンバー	メモ欄	紹介ポップ
なんよう たろう 南陽 太郎	・ 柔道部・ゆるきやら好き ・ 好き嫌いが多く。メロンパンが大好き ・ 妹思いのよき兄。 ・	熱く燃える男 心優しく、燃える男 ミスター 思いやり 意外性の男

【紹介例】

チーム A “心優しく、燃える男” 南陽太郎 さんを紹介します。太郎さんは、現在柔道部に所属し、県大会出場を目指して日々練習に励んでいます。……

※他のチームのよさも見つけよう！

ワークⅢ 『セミナーで学ぶことを、自らの目的意識を確かめる。』

これができたら、“目的達成”という自分のハードルを言葉にする。

このセミナーに申し込んだ動機や、今日の講話をふまえて、今、考えている本セミナーにかける思いを言葉にしよう。

★ 第2回 事前研修会

平成28年12月24日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 大会議室

- ・南陽市の特色(魅力と課題)を考える。
- ・沖縄県の特色(南陽市にない魅力を中心に)を考える。
- ・**宿題** 資料を読み、南陽市と沖縄の特色について話し合う準備をしておくこと。

★ 第3回 事前研修会

平成28年12月27日(火) 9:30～11:45 南陽市役所 大会議室

- ・現地中学生とねらいに沿った交流 → 時間は90分
- ・**宿題** 現地中学生とこんな交流がしたい！ についてのアイデアを考えておくこと。

★ 第4回 事前研修会

平成29年1月7日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 大会議室

- ・現地中学生との交流 リハーサル。



平成28年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会②

日 時 平成28年12月24日(土)9:30～

場 所 南陽市役所大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

・南陽市教育委員会 学校教育課長 板垣 健

3 研修 【 9:35】

(1) 『仲間を仲間に紹介しよう』 発表の続き

(2) 昨年度参加者の感想より

(3) 本日のねらいの確認

① 南陽市の特色（魅力と課題）を考える。

“糸満市の中学生に伝えたい南陽市の魅力”につなげる

② 沖縄県の特色（南陽市にない魅力を中心に）を考える。

“糸満市の中学生に聞いてみたい沖縄県の魅力の理由”につなげる

(4) ワークⅠ 南陽市の特色を考えよう！

『糸満市の中学生に伝えたい南陽市の魅力はなんだろう』 【 9:55】

- ・ “私の考え”を付箋に書く。
- ・ グループに分かれ、大判用紙に貼りながら、考えを共有する。
- ・ 分類しながら、キーワードをまとめる。
- ・ 各グループの発表（各グループ 3 分） 【10:25】
- ・ グループ間発表を受けて、改めて自分の考えをワークシートにまとめる。

……………休憩……………

(5) ワークⅡ 沖縄県の特色を考えよう！

『糸満市の中学生に聞いてみたい沖縄県の魅力はなんだろう』 【10:45】

- ・ “私の考え”を付箋に書く。
- ・ グループに分かれ、大判用紙に貼りながら、考えを共有する。
- ・ 分類しながら、キーワードをまとめる。
- ・ 各グループの発表（各グループ 3 分） 【11:15】
- ・ グループ間発表を受けて、改めて自分の考えをワークシートにまとめる。

(6) まとめ

4 その他

5 閉 会

★ワークⅠ 『糸満市の中学生に伝えたい南陽市の魅力はなんだろう』【9:45】

★ワークⅡ 『糸満市の中学生に聞いてみたい沖縄県の魅力はなんだろう』【10:45】

★ 第3回 事前研修会

平成28年12月27日(火) 9:30～11:45 南陽市役所 大会議室

・現地中学生との交流について

宿題 現地中学生とこんな交流がしたい！ についてアイデアを考えておくこと。

・現地中学生とねらいに沿った交流 → 時間は60分程度

○「出会い」・「交流」・「別れ」の3場面の内容

「出会い」：どんな出合いにしたいのか

「交流」：できるだけ多くの対話をしたい

「別れ」：どんな別れにしたいのか

※主導権は我々にあり！ 他人任せにしない！



平成28年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会③

日 時 平成28年12月27日(火)9:30～

場 所 南陽市役所大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 研修【9:30】

(7) 本日のねらいの確認

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 現地中学生との交流の内容を決定する。② 地域間交流セミナー当日までに準備することを確認する。 |
|---|

(8) ワークⅠ 現地中学生との交流について

『“こんな交流がしたい”という考えを共有する』【9:35】

- ・ 決まっていることを確認する。
- ・ グループで協議
- ・ グループ間発表を受けて、現地中学生との交流内容を決定する。

※ 主導権は我々にあり！ 他人任せにしない！

○「出会い」・「交流」・「別れ」の3場面の内容

「出会い」:まずはどんな出会いにしたいのか ※去年は名刺をいただいた。

- ・ 短い時間で、自分たちのことを少しでもわかってもらえるには・・・
- ・ その後の活動を和やかに進められるようにするためには・・・

だとすると、代表者か or 分担しながら全員か

PPTを使用か or 手作り資料を使用か or スピーチのみか

「交 流」:できるだけ多くの対話をしたい

だとすると、全員対全員 or 3対3 or 4対4 or 2対2

or 1対1 (相手の人数によっては3or2対複数)

途中で相手を替えて多くの意見を聴く or 同じ相手と深く対話する

「別 れ」:どんな別れにしたいのか

- ・ 貴重な時間をいただいた学校へ、生徒へどうする？

感想・お礼は？ 代表 or 全員

(9) ワークⅡ 『当日までに準備することを確認する。』【11:20】

- ・ schedule の確認
- ・ 役割分担

(10)シェアリング

4 その他

5 閉 会

★ワークⅠ 現地中学生との交流…『“こんな交流がしたい”という考えを共有する』【9:35】

- 期 日 平成29年1月20日(金)
- 訪問校 糸満市立兼城(かねぐすく)中学校 ※沖縄 糸満市の中学生との交流
- 時 間 14:45～15:00【交流:50分】 ～16:00
- 交流のイメージ

14:45	15:00			15:50	16:00
-------	-------	--	--	-------	-------

・歓迎会？ ・オープニング セレモニー	交流会【50分】	お別れの会
---------------------------	----------	-------

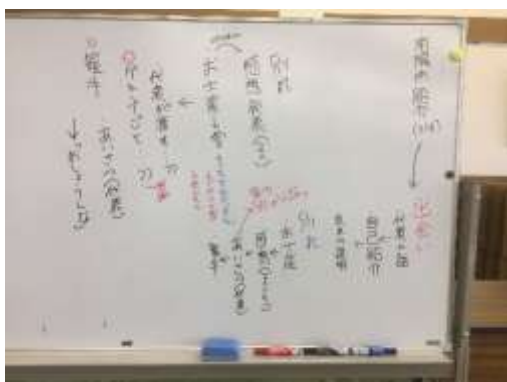
- ※ テーマは何？
- ※ 交流会の主体は、南陽の中学生！
- ※ 糸満市の中学生は…………生徒会役員の予定
- ※ 兼城中学校の生徒も沖縄の説明を準備している様子
- ※ 自分がこのセミナーで何を目的としていたのか、
 | ということを振り返ろう。

◎①訪問感謝代表挨拶・②進行

◎③御礼の言葉・④進行

◎ 全体で？ グループで？ 1対1で？ 話し合う？ 体を動かす？ 歌う？

※ 持っていく? 作っていく? お土産?



★ ワークⅡ 『当日までに準備することを確認する。』

日	月	火	水	木	金	土
		27	28	29	30	31
		事前 研修会③				
1	2	3	4	5	6	7
						事前 研修会④ 9:30～ 市役所
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
	結団式 19:00～ 市役所			★地域間交流セミナー		
22	23	24	25	26	27	28
						事後研修 会 9:30～ 市役所

～ メモ ～

【☆ 本日の学びを振り返ろう】



★ 第4回 事前研修会

平成29年1月7日(土) 9:30～11:45 南陽市役所 大会議室

- ・現地中学生との交流 リハーサル
- ・役割分担について

★ 地域間交流セミナー結団式

平成29年1月16日(月)19:00 南陽市役所 大会議室

- ◎ ⑤結団式の進行 ・ ⑥団員代表決意の言葉

平成28年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事前研修会④

日 時 平成29年1月7日(土)9:30～

場 所 南陽市役所大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ

板垣 健 学校教育課長

3 研修【9:35】

(11) 本日のねらいの確認

(ア) このセミナーに参加する自分の決意を行動化できるか確かめる。

(イ) 現地中学生との交流の進め方を理解する。

※ 挨拶等分担を決める。持ち物等の確認をする。

☆ 帰ってきたら報告の義務がある！

(12) ワークⅠ 『現地中学生との交流の進め方を確かよう！』【9:40】

前回決まったことの確認

(13) ワークⅡ 『交流会に必要な準備をしよう！』【9:50】

準備に必要なものは？

(14) ワークⅢ 交流会のリハーサルをしよう！

(15) ワークⅢ 『挨拶等の役割分担をきめよう！』【11:25】

(16) その他 持ち物を確認する【11:35】

4 その他

5 閉 会

地域間交流セミナーの目的

・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う

自立した人材の育成

◎ 自立した人材・・・

・ 自分の進む道を自分の意志で決めることができる。

・ 広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができる。

◇ 南陽市中学生としての学びを発信する！

研修メニュー

・ 沖縄特有の文化や風習に触れる。

→ 民泊・史跡等の見学

・ 地域(南陽市)に対する考え方を深める。

→ 現地の中学生との交流

・ 多面的、多角的な見方・考え方を身に付ける。

→ 事前・事後の研修

★ワークⅠ 『現地中学生との交流の進め方を確認しよう！』【9:40】

➤ 期 日 平成29年1月20日(金)

➤ 訪問校 糸満市立兼城中学校 ※糸満市の中学生との交流

➤ 時 間 14:45～15:00【交流:50分】～16:00

➤ 交流のイメージ

14:45 15:00 15:50 16:00

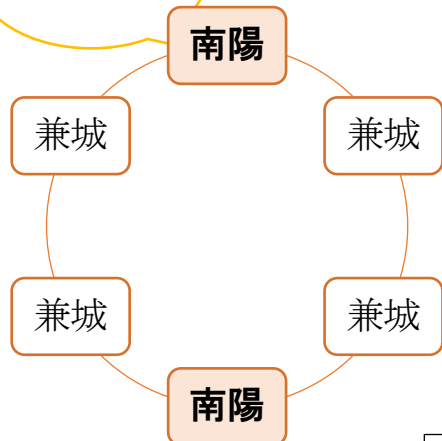
オープニング セレモニー	交流会【50分】 テーマ 『違いと共通点から本心を探る』	お別れ の会
-----------------	-------------------------------------	-----------

※ 交流会の主体は、南陽の中学生！

※ 糸満市の中学生は……………生徒会役員 20 名程度？

※ 自分がこのセミナーで何を目的としていたのか、もう一度振り返ろう。

1つ目は、



- 南陽2人 対 糸満3～4人 で互いがどんなことを考えているのか語り合う。双方向のやり取りを目指す。(南陽のこと→沖縄のこと→質問する)
- ペアで兼城中の生徒に問いを投げかけることで南陽の“これから”、自分の“これから”、南陽のよさの再発見につなげる。目的の達成をはたす。

※50分ずっと同じメンバーで交流？途中メンバーを変える？

(例)今日皆さんと話したい、皆さんの考えが聞きたいテーマを3つ用意してきました。
(例)質問カードの準備など

「出会い」

- ・代表あいさつ
- ・自己紹介
- ・南陽市の簡単な紹介
- ・流れの説明

「別れ」

- ・お土産を渡す
- ・感想発表
- ・代表あいさつ
- ・握手でお別れ

★ワークⅡ 『準備の必要なものは？』 【9:50】

★ワークⅢ

交流会をよりよいものにするために、リハーサルをして気づいたことをメモしよう



★ ワークⅣ 『挨拶などの役割分担を決める。』【11:25】

1	16日結団式進行	
2	16日結団式代表挨拶	
3	20日兼城中交流会進行	
4	20日兼城中出合いの会代表挨拶	
5	20日兼城中別れの会代表挨拶	
6	20日民泊受入れ式代表挨拶	
7	21日民泊お別れの式代表挨拶	

※ 役割があたらない人は、帰ってきてからの報告会等やイレギュラーな場面で対応していただきます。

★ その他 『持ち物を確かめよう』

	NO	持ち物・服装	備考
	1	学校の制服	基本的に、セミナー中は制服で行動します。
	2	学校のジャージ	ホテルや民泊する際、着用します。
	3	下着・靴下等	2泊3日分
	4	着替え	基本的に制服で行動しますが、暑さ寒さ対策等必要だと思われるもの。
	5	洗面用具・タオル等	個人で使うものの準備。 必要があれば、ドライヤー等
	6	薬	必要な人。 いつも飲んでいる薬、虫除け等
	7	軍手・帽子	見学時に着用。安全面も考慮しましょう。
	8	靴	履きなれた、歩きやすい運動靴等

	9	おこづかい	10,000 円以内。買い物をする時間は限られています。また、暑さ対策として、ペットボトル等を購入する場合があります。金種を分けて持参しましょう。
	10	懐中電灯	各自1つ持参すること。見学地で使います。頭につけるタイプのものが望ましい。
	11	デジカメ	必要な人のみ。新たに準備する必要はありません。しかし、皆さんには、報告する義務もあります。記録は重要です。
	12	研修用具	筆記用具・事前学習資料・自分で集めた資料等、記録は重要です。
	13	雨具	折りたたみ傘等

※事前説明会資料も参照のこと

★ 地域間交流セミナー結団式

平成29年1月16日(月)19:00～

南陽市役所 大会議室

★ 事後研修会

平成29年1月28日(土) 9:30～11:45

南陽市役所 大会議室

宿題：兼城中学校交流会の感想文下書き



平成28年度 南陽市中学生地域間交流セミナー結団式

日 時 平成29年1月16日(月)19:00～

場 所 南陽市役所大会議室

【進行 赤湯中 】

1 開会のあいさつ

2 教育長あいさつ 南陽市教育委員会 教育長 猪野 忠

3 セミナー参加者紹介

① 団 長

② 引率者

③ セミナー参加中学生【自己紹介】

学校名・氏名・セミナーに向けて一言

4 セミナー参加者代表挨拶 【 赤湯中 】

5 激励の挨拶 南陽市長 白岩 孝夫 様

6 閉会のあいさつ

7 事務連絡

※ 記念撮影



平成28年度 南陽市中学生地域間交流セミナー事後研修会

日 時 平成29年1月28日(土)9:30～

場 所 南陽市役所大会議室

【進行 事務局】

1 開 会

2 団長あいさつ 板垣 健 学校教育課長

3 研修【9:35】

(1) 本日のねらいの確認

地域間交流セミナーの目的

- ・ 故郷を思い、将来の南陽市を担う
自立した人材の育成
- ◎自立した人材・・・
- ・ 自分の進む道を自分の意志で決めることができる。
- ・ 広い視野を持ち、多面的な見方・考え方ができる。
- ◇ 南陽市中学生としての学びを発信する！

セミナーを振り返り、私たちが発信する内容をはっきりさせる。

セミナーを振り返り、自分たちが発信する内容を整理する。

ワークⅠ 一番心に残ったこと。

現地で見聞きしたことや資料から考えたことを交流する。

ワークⅡ 各学校での報告会について考える。

ワークⅢ 「兼城中交流会」感想文の清書

(2) ワークⅠ “一番心に残ったことは何だろう？”

○ 一番心に残ったことをキーワードで表そう

○ セミナーで身につけた力をつかう ディスカッション。

・ 現地で見聞きしたことや資料から感じた思い

(3) ワークⅡ 発信する内容をはっきりさせる。【10:35】

『これからの南陽市に向けた、私たちの思い……。』

(4) ワークⅢ 『兼城中交流会』感想文の清書 【11:10】

(5) まとめの話

誰に・・・
どんなことを・・・
どんな風に・・・
「私は、こんなことをだ
れに伝える。」

4 その他 ・学校ごとの報告会 → 市教委から依頼 → 実施 → 報告

・【連絡】 セミナー全体を通した感想文 1200字程度 提出(2・13)→ 報告書

5 閉 会





セミナーを振り返って



地域間交流セミナーを通して

南陽市立沖郷中学校 2年

「行ってきます。」緊張と期待が入り混じった中、南陽市を出発しました。白岩市長が結団式の時におっしゃった「自分の力を最大限に発揮し、全力で学ぶ。」を胸に沖縄へ向かいました。

沖縄に着いてからは南陽市では出来ないような初めての体験ばかりでした。地形や気候も違えば、衣食住の文化も異なり驚きました。目に飛び込んでくるのは新鮮な事ばかりで、更に現地の人々の心の温かさに触れて、沖縄の魅力を十二分に感じる事ができました。その一方で、南陽市の外に出たからこそ、自分の故郷の良さを改めて考え直すことができました。四季折々の風景も、特産品も文化遺産も私の住む南陽市は、胸を張って誇れる場所だと言えます。だからこそ、故郷を外にアピールしたいと思いました。

轟壕や平和祈念公園に行き、自分の目で見て、空気で感じ取り、当時の戦争の悲惨さを見聞きし、改めて平和の大切さを再認識しました。セミナーに行く前に沖縄戦について調べていたのですが、どこか他人事のように思っていました。実際に行ってみると、この地で何百万人もの方が亡くなったのだなと思い、胸が痛くなりました。「戦争」という残酷な過去を決して他人事のようにとらえてはいけないのだと深く考えさせられました。辛い歴史にしっかり向き合って過去の事実を次の世代に語り継いで、自ら発信していくことの大切さを学びました。沖縄の地は、平和への強い思いで満ち溢れていました。

今回、初めて体験した民泊。その日会ったばかりで、上手く馴染めるか不安でしたが、民泊先のお母さんは気持ち全開で私を受け入れてくれました。次第に心の緊張もほぐれ、いつの間にか「お母さん」と呼んでいました。お母さんから言われた「コミュニケーションは大切だよ。いずれ社会に出た時に必要になるから。」という言葉が胸に響きました。自分の心を閉ざしてしまうと前にも進めず、視野を広げることも出来ません。自分から心を開くことで、同じ食卓を囲んで食べたり、サンゴを使って世界に一つだけのフォトフレームを一緒に作ったり、同じ空間を本当の家族のように過ごすことができました。

このセミナーを通して学んだことは、書ききれないほどたくさんあり、何も知らなかった私も、事前研修で知識をそろえて臨みましたが、「百聞は一見にしかず」で自分の目で見て、聞いて得たものは、私の財産になりました。三日間でたくさんの一期一会もありました。山形から1700km以上も離れた沖縄県糸満市で貴重な出会いが出来て、自分に自信が持てて良かったです。今回のセミナーはたくさんの方々の支えがあったからこそ多くの事を吸収できました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

地域間交流セミナーを通して

南陽市立沖郷中学校 2年

私の今回のセミナーでの目標は「外から見た南陽市を知ること」と「自分の考えを深めること」でした。

一つ目の「外から見た南陽市を知ること」は、民泊を通して達成できたと思います。民泊では、沖縄料理作り体験をさせていただきました。サーターアンダギー、シークワサーージュース、にんじんシリシリを作りました。山形にはない、シークワサーや調味料などがありました。初めて会った私にも親しく接してくれて優しさを感じました。南陽市の人よりも、沖縄の人は会った人全員が思いやりのある人でした。私はそれを見て、自分もそうなりたと思ったし、南陽市にもそういう人が増えてほしいと思いました。

二つ目の「自分の考えを深めること」は、沖縄の様々な文化、歴史にふれたことで達成できました。私は、自分の考えを人に伝えるのが苦手でした。二日目には、轟壕に入ったり、平和祈念公園へ行ったりと、「戦争」についての学びが多くありました。ガイドさんのお話で、戦争中の壕の様子を聞き、壕すら知らなかった私にとっては驚きでした。真っ暗で、歩きづらく、蒸し暑い場所でした。そんな不便なところに戦争中いたら、言葉では表せないほどの辛さがあるのだと思います。それでも、守らなければならない命があると考え、胸がいっぱいになります。命の大切さを学ぶ、貴重な経験でした。

他に、沖縄の方言を生で聞くことができました。沖縄に行く前まで、沖縄の人はのんびり話すイメージがありました。また、どんな方言があり、どんな意味があるのか知りませんでした。それを、現地の人との交流で学びました。まず、兼城中に行った時です。グループに分かれて話し合いをしました。その中で、互いの方言について話題になりましたが沖縄の言葉はイントネーションが違って聞こえてきました。逆に、兼城中の人私も私と同じように山形の違いを感じているようでした。次に、民泊の時です。民泊でお世話になった方は、喋る時に語尾に「さ」をつけていました。正直、何を話しているのか全く分かりませんでした。しかし、分かりやすいようにゆっくり話してくださったので、そこにも優しさを感じました。そして、方言からも、文化の違いがあると実感しました。

今回のセミナーで学んだことは、私の財産になりました。しかし、今回だけにとどまってしまうたら、意味がないと思います。沖縄の人はどこに行っても親切な方しかいませんでした。戦争の経験をしているからこそ、心の痛みが分かって優しくなれるのだと思います。現代は、いじめや自殺で簡単に命を落としてしまう人がいるという状況です。戦争があった時代に比べ、安全で豊かな暮らしができていう生活に感謝し、平和な世界になるように行動していきたいと思います。

地域間交流セミナーを通して

南陽市立赤湯中学校 2年

私は、1月19日から21日まで地域間交流セミナーで沖縄に行きました。飛行機は初めてではありませんでしたが、沖縄に行くのは初めてでした。

一日目、首里城を観光しました。ガイドの永子ねーねーに案内してもらい首里城のいろいろなことを知りました。中でも、一番驚いたのは、首里城にペリーが来たことです。このように学校では学ぶことのできないことを学びました。

二日目、午前中は戦争に関わる所を巡りました。轟壕では、ライトを消して当時の人がいた空間を体験しました。暗闇の中で聞こえるのは流れている川の音と上から降ってくる水の音でした。壕の中で起きたことを聞いたりして戦争について知ることができました。平和祈念館では、当時アメリカ兵が撮った写真などがありました。その中には、人が死んでいるものもありました。その写真を、私は見られませんでした。平和祈念館のロビーの一部には、ガラスがはめ込まれていて、その下を見ると不発弾があります。沖縄の土地には、今も不発弾がたくさん残っているそうです。地面を掘り起こすと、二、三発以上の不発弾が見つかるそうです。世界には未だに埋まっている地雷があることは知っていましたが、沖縄にも不発弾があるなんて知りませんでした。同じ日本のことなのに、違う国のように思ってしまう位、衝撃的でした。午後は兼城中に行き、現地の中学生と交流しました。現地の人にしか分からないことを知ることができてよかったです。たとえば、豚の血まで食べるなど衝撃的なものもありました。別れの時には、外まで見送りに来てくれて、とてもうれしかったです。夜は民泊しました。私が泊めていただいた波平さんの家では、三線を教えてもらったり、沖縄の料理を作ったりして、とても楽しかったです。

三日目、早朝に海に行きました。波の音を聴いたり、貝殻を拾ったりしました。私が特に心に残ったのは、海に向かって自分の頑張りたいことを叫ぶことでした。実際に私もしたところ、心に溜まっていたモヤモヤが軽くなり、すっきりしました。お別れの会では、沖縄に伝わる民話を聞いたり、皆でカチャシーを踊ったりしました。お母さんと離れるのが辛くなりました。民泊を受けて下さったお母さん達や運営をして下さった方々に感謝しています。このような体験はなかなかできないので、協力してくれた人の思いを無駄にしないように胸に刻みたいです。

この三日間を通して、私は沖縄の人の温かさと戦争のことを知ることができました。沖縄は気候が暖かいだけでなく、人も温かくて、見ず知らずの人にも優しく接してくれます。戦争についてはやはり私達はよく知らないので、貴重な体験ができたと思います。

地域間交流セミナーに参加して

南陽市立赤湯中学校 2年

私は、この地域間交流セミナーで、「沖縄の方々の温かさ」「平和や戦争」「私達が今南陽市にできることは何か」を知り、あらためて考えることができました。そして何よりも、自分を成長させることができたセミナーになりました。

「沖縄の方々の温かさ」これは沖縄に行って一番に感じたことです。初対面の私達に、沖縄の方々はとてもフレンドリーに接してくださいました。写真を撮ってくださった後に少し小話をして、最後に「楽しんでいけな」と言ってくださったり、民泊のお母さんは、私達を自分の子供のように接してくださいしたりしました。兼城中学校のみなさんもとても明るく、私もとても話しやすかったです。沖縄に行っていたのは三日間でとても短く感じましたが、沖縄の方々の明るさや、温かさをとても感じました。

「平和や戦争」では、地上戦があった沖縄だからこそ聞ける話や体験をしてきました。体験では、戦火から逃れるために人々が暮らした轟壕の中に実際に入り、戦争中轟壕で何があったのかなど話を聞きました。その話の中で私が一番戦争の苦しさや恐怖を感じた話は、戦争をすると人は人格まで変わってしまうという話です。今は、お菓子や食べ物を持っていたら、友だちに分ける、家族に分ける、こんなことは当たり前になります。しかし、戦争中の人々は食べ物を見つけたら人にあげる、という気持ちにならないほど、空腹に困ったそうです。また、食べ物の奪い合いもあったそうです。壕の中で赤ちゃんが泣くと追い出されたそうです。もし、食べ物を奪い合った人が今の平和な時代に生きていたら、食べ物を分けて一緒に食べる人になっていたに違いありません。壕で赤ちゃんが泣いたら追い出した人も、今の時代なら、優しい人だったに違いありません。それなのに戦争は、人々の人格までも変えてしまうのだと思うと本当に恐ろしいです。

「私たちが今南陽市にできることは何か」では、私は沖縄に行って感じたことを他の人に伝えるということです。例えば、地上戦争についてです。沖縄は日本で唯一地上戦があったからこそ今話せる思い、歴史があります。私はそのことを南陽市の皆さんに伝えたいと思います。そして、南陽市だからこそできることは何だろう。中学生だからこそできることは何だろうと考えました。私が南陽市にできることは、あいさつ、行事で地域を明るくすることだと思いました。小さいことですが、これは私達中学生だからこそできることだと思います。

私はセミナーで、南陽市にできることは何かと考えていたのですが、今は、南陽市だからこそできることは何かと考えるようになりました。また沖縄で学んできた戦争のこと、人々の温かさなどをこれからも忘れず、沖縄での思い出を大切にしていきたいです。

沖縄を肌で感じて

南陽市立赤湯中学校 2年

私は、今回のセミナーで様々な体験をしてたくさん学んで成長することができました。その中で、特に印象に残ったことが三つあります。

一つ目は、沖縄の戦争の歴史です。私は沖縄では激しい戦争があつてたくさんの方が亡くなったという程度のことは知っていましたが、現地に行って学んでみると私の想像をはるかに越えるものでした。実際に戦争当時に生活していた轟壕の中に入ってみたり、今も地面に埋まっている不発弾を見たりして、言葉を失いました。そして轟壕を案内して下さったガイドさんのお話の中で心に残った言葉があります。それは、「戦争は人を変える」という言葉です。初めは、腕や足がない人を見るのは辛かったそうです。しかし、毎日見ているうちに、腕や足がない人を見ることも死体を踏むことさえも、何も感じなくなるほど戦争は人を変えてしまうのです。このような体験から、平和だからできることがたくさんあるということを改めて感じるすることができました。

二つ目は、現地中学生との交流です。この活動は、事前学習から特に力を入れて深い交流ができるよう頑張ってきました。しかし、私は人と話すことが苦手で、正直深い交流ができるか不安でした。でも当日は、沖縄の人も話を盛りあげて下さいました。交流の中で私は、驚いたことがありました。それは、交流をさせていただいた中学校の地下からも不発弾が見つかったということです。たくさん生徒が学習する場の中学校からも不発弾が見つかるということを考えるだけで、私はとても怖くなりました。そして、沖縄の方は今でも、戦争と戦っていると感じました。この貴重な交流では、私たち中学生の目線で本音の交流をすることができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。

三つ目は民泊です。民泊では、ホストファミリーの方と一緒に、郷土料理を作ったり、琉球ガラスを使ったフォトフレームを作ったりしました。僅かな時間でしたが、民泊をしないとできない、郷土料理作りや、民泊をしたからこそ深く感じることができた、沖縄の人の心の温かさは、私の宝物になりました。

私は、この三日間のセミナーでたくさん学び、様々な体験をすることができました。中でもいちばん心に残ったのは、「戦争」についてです。戦争は絶対にしてはいけないし、沖縄に行った私たちだからこそできることは何かを日常生活から考えて生活していきたいです。そして、私たちが置かれている環境がどれだけ平和で幸せなのか、平和なことは当たり前ではないということを頭において生活していきたいです。そしてこの経験を将来の南陽市に生かしていけるよう精一杯頑張ります。

沖縄で感じたこと

南陽市立赤湯中学校 2年

僕が、南陽市地域間交流セミナーに参加させていただいて感じたことは三つあります。

一つ目は、戦争についてです。最初に轟壕に行ってみて、実際に当時の人が使っていたところに入りました。そこでガイドさんの話を聞いていて、いつもは優しい人も、戦争中は、泣く子どもを追い出したりして、極限状態では人が変わってしまい、こわいと思いました。もし僕もそこにいたら、死んだ人がいても気にしないのかなぁと思うと本当にこわかったです。次に平和祈念公園に行きました。そこで僕は、下半身の無い人や戦争の映像を初めて見て、戦争の恐ろしさを知りました。そして、時間がたつほど写真の人がみんな笑顔になっていき、改めて、戦争が人を変えてしまうことを実感しました。最近戦争を経験した人がどんどん減ってきていると思います。だから、この経験をどんどん、いろいろな人に伝えていきたいです。

二つ目は、沖縄の人の優しさです。僕は二日目に民泊に泊まりました、そこで会ったじいじとばあばは、初めて会ったのに、優しく、気軽に話してくれました。特に僕が沖縄の人がすごいと感じたのは、僕がばあばに沖縄を案内してもらった時です。農家のおじさんに、「さとうきび一本ください。」と言ったら快くくださったので驚きました。その他にも、買い物をしていると、店員さんが、「どこから来たの。何年生。」と楽しく会話をしてくださって、しかも、いろいろ安くしてくださってうれしかったです。また、民泊の他に優しさを感じたのは、沖縄の中学生との交流です。僕は最初とても緊張していて、何を話せばいいかわかりませんでした。その時、沖縄の中学生が、「何について話すの。」と聞いてくれて、いろいろな話ができました。僕は、このような沖縄の人の優しさは、日本で唯一の地上戦があったからだと思います。とてもつらい経験があったからこそ、人のことを考え、優しくしてあげられるのだと思います。僕は、この優しさを見習い、だれにでも優しくできるようにしたいです。

三つ目は、文化の違いです。僕は、主に山形との違いは二つあると思います。一つは、昔琉球王国という一つの国であったことです。そのため、日本語とはまったく違う、「うちなーぐち」（沖縄の方言）があります。その中で一番好きな言葉は、「いちやうばちょーでー」一度会えば兄弟（家族）という意味です。沖縄の人、それでいつも仲良くしてくれました。二つ目は、アメリカの文化があることです。僕が沖縄で一番好きな食べ物は、「タコライス」です。これは、アメリカの「タコス」からきています。その他にもさまざまな沖縄の文化を学ぶことができました。

僕は今回、経験した様々なことをそれで終わりにはせず、次につなげていきたいです。

地域間交流セミナーを終えて

南陽市立赤湯中学校 2年

私は、地域間交流セミナーで沖縄に行き、様々なことを感じ、学んできました。

その中で最も心に残ったのは、戦争のことでした。“戦争は人を変える”この言葉は、轟壕のガイドさんがおっしゃった言葉です。最初は、よく意味が分かりませんでした。しかし、お話を聞いているうちに、その意味が分かるようになりました。赤ちゃんが泣かないように口に石をつめた、泣く子は日本兵が殺していた。今思い出しても、悲しくなるお話でした。平和祈念資料館では、戦争を体験した方の文章を読みました。「自分の子供が泣かなくなったのを、かえってよかった、というような安心もあった」という文がありました。自分の子供が死にそうなのに安心するなんて、本当に人が“かわる”のだと思いました。

「赤ちゃんを殺した日本兵も、今の時代にいたら、優しいお父さんになっていたのではないのでしょうか」ガイドさんが言いました。私もそう思います。すべて“戦争”が悪いのです。こんなに悲惨で、悲しい経験を日本はしています。

“命どう宝”沖縄の言葉で、命こそ最高の宝である、という意味です。平和祈念公園の石碑に書いてありました。戦争の悲しさを、私は忘れないようにしていきたいです。そして、平和な時代に暮らせる幸せと、“命どう宝”という言葉大切にしていきたいです。

この交流セミナーを通して、今の時代の沖縄の魅力は、明るさと優しさであると感じました。沖縄の兼城中学校との交流では、緊張している私達に、積極的に話しかけてくれ、一生懸命話を聞いてくれました。短い時間でしたが、とても中身の濃い時間でした。そして、会って話してみないとわからないことがあるなと感じました。持って行った雪のお土産などとても喜んでくれました。兼城中の人達が、これからも南陽市に興味を持ってくれたらいいと思います。

民泊では、沖縄の生活や料理、文化を体験しました。優しいおじさんとおばさんに、沖縄や戦争のことを教えていただきました。そして、シーサー作りや空手を体験しました。とても楽しく、沖縄のことを色々学びました。

沖縄には、不発弾が残っていたり、基地の問題があつたりします。戦争は終わりましたが、これらの問題もすべて解決したら、本当に、戦争が終わった、と言えると思います。

すぐに私達にできることはないかもせれませんが“沖縄に関心を持つこと”が大事なのではないかと感じました。

私は沖縄から帰って来て、南陽市は良いところだな、と改めて思いました。また、沖縄に限らず、他の市や県、国を知ることが、南陽市や自分自身を知ることにつながるのではないかと感じました。このセミナーで学んだことを大切に、これからの生活に活かして一生懸命頑張っていきたいと思います。

人の温かさを感じた三日間

南陽市立宮内中学校 2年

僕はこの地域間交流セミナーで、様々なことを学ぶことができました。

まず、事前研修で沖縄のことを調べることから始まりました。沖縄のことを仲間と一緒に調べ、兼城中さんとの交流について考えました。そんな研修会もあっという間に過ぎ、当日になりました。

セミナー当日三日間で、沖縄の歴史、文化を学びました。特に僕が印象に残っているのは、二日目にいった轟壕と平和祈念公園です。轟壕では、入る時に足場がすごく悪く、滑りとても生活できるようなところではありませんでした。ライトを消すと、真っ暗でとても怖かったです。奥に行ってガイドさんの話を聞いていたら、何を考えていいのかわからなくなり頭が真っ白になりました。昔は死体もたくさん中にあっただけで血の臭いなどでくさかったそうです。中には頭がくるってしまう人もいたと聞いて、戦争は、人も変えてしまうことが分かりました。また、水はとても貴重な物で、手ぬぐいにしみ込ませて飲んでいただほど大切な物でした。平和祈念公園では、戦争の写真を見ました。未だに不発弾は残っていて、正規軍人より、一般住民の犠牲者の方がはるかに多かったそうです。爆弾は一ヶ月に六百八十万発、一人あたり五十発、当たっていた計算になります。僕には想像できません。この二つの場所で改めて命の大切さ、今の私達の生活がどれだけ幸せなのかを考えることができました。

兼城中さんとの交流会では、話し合いがうまくいくか心配でしたが、とても話やすく同じ世代として、思っていることを深く考えられる、いい交流会になりました。

民泊では、三線やサーターアンダギー、フォトフレーム作りを体験しました。朝は早くから海に連れて行ってくださり、琉球ガラス村でも、琉球ガラスをもらいました。この体験民泊は、僕の一生の思い出です。

今回のセミナーでは、戦争の恐ろしさ、人の温かさを学ぶことができました。人の温かさでは、人とのつながりを大切に、家族や友達、先生に感謝する気持ちです。戦争の恐ろしさ、これは今、そして次の世代にも伝えていかなければならないことだと思います。自分にできることを精一杯努力したいです。もっと周りを見られるように市、人のことを考えられるような人になります。

今、自分の生活を「あたりまえ」と思わず、これから、自分、周りの人達、南陽市のために生活していきたいです。

ありがとうございました。



充実した内容の濃い三日間

南陽市立宮内中学校 2年

今回のセミナーを通して、今までの自分の見方や考え方が大きく変わった充実した三日間でした。

僕は、人見知りがあり事前研修から不安な気持ちでしたが、他校の人達が積極的に話しかけてくれて、すぐに打ち解け、中身に入ることができ、内容の濃い話し合いができました。

そんな事前研修もあっという間に終わり当日を迎えました。

まず、沖縄の上空を飛行機で飛んでいるとキレイな海が見えてきて、とてもワクワクしていました。

最初に、首里城公園に着くと、教科書やネットで見るとは違い、迫力のある、歴史ある建物だと感じました。

そして、首里城の中に入り、その時代の背景や、外国から身を守るための仕掛けがあるのを見て対立意識があったと感じました。

次の日は、「平和」に関することについて沢山学びました。

轟壕では、真っ暗で何も見えない中、約千人を超える人が住んでいたと聞いて、今では絶対考えられないと思ったし、戦争の時は、命を守るためなら無理をしてでも入らなければ生きられないと言うことを聞いて、「なぜ戦争なんかしなければならないのだろう」という疑問が出てきました。

また、その事は、次に行った平和祈念公園でも強く考えさせられました。

なぜなら、沢山の戦争についての史料があり、一つ一つ見ていくと、事細かく戦争について記されていました。

僕が印象に残ったのは、亡くなった人の写真があって、何の罪もない人達が無造作に殺されている写真を見て、今まで考えていた、戦争とは本当に何なのだろうと思いました。

どんどん見ていくと壁一面に、こんな事が書いてありました。

「戦争を起こすのは人間。しかし、それ以上に戦争を許さない努力をできるのも人間。」という言葉です。

このことから、戦争が二度と起こってほしくないという強く熱い思いが伝わってきました。

また、戦争を経験した現地の方々の文章を読んでみて、僕達と戦争を経験した方々とは見方も考え方も全然違うという事を改めて実感しました。



兼城中学校さんとの交流では、お互いの良い所を聞いたり、郷土料理、戦争のことについて聞いたりすると、沖縄の人は豚の鳴き声以外すべて食べると言っていて、驚いたと同時に、食文化の違いに改めて気付くことができました。

戦争の事については、学校のプールの近くから不発弾が発見されたと聞いて、今でも戦争の爪痕が残っていて安心して生活ができないと言う事が印象に残っています。

最後に、沢山の違いを見つけられた民泊では、一緒に晩ご飯を作っている時に、見た事はあるけど、作ったり食べたりしたことがない、ゴーヤチャンプル、タコライス、人参シリシリなどを食べてお母さんとお父さんとの交流を深めて、人の温かさを肌で感じられました。方言の「いちやりばちょーで一」がその通りだと思いました。また、沖縄の伝統的な楽器、三線の弾き方まで教えてもらい、本当に有意義な時間を過ごすことができました。

僕は、「沖縄」という所を通して、人の温かさ、戦争の苦しさ、沢山の貴重な体験をさせてもらって、自分の成長に活かされたと思います。

そして、この事を、自分だけのものにせず、学校、地域に発信することで、南陽市の発展につなげていきたいと思っています。

最後に、このような企画、運営をしてくださった皆さん、温かく迎え入れてくれた沖縄の方々、本当にありがとうございました。



自ら学んだ三日間

南陽市立宮内中学校 2年

「大智君これやってみない？」と先生と話した時から、私の交流セミナーは始まりました。最初は軽い気持ちでいた事前研修会も一回、二回と積み重ねていくうちに、沖縄のイメージを広げることができました。私が印象に残ったことが三つあります。

一つ目は、民泊についてです。民泊先の人とはとても楽しく、おもしろく、会った瞬間から家族のように迎え入れてくれました。沖縄の文化や風習を学びながら、一緒に調理もさせてもらいました。沖縄の郷土料理であるタコライスや、ソーキそばを食べながら交流を深め、人の温かさを肌で感じる事ができた楽しい民泊体験になりました。また、沖縄ではなく私達が住んでいる南陽市のように思えてきました。文化や歴史も違う遠く離れた場所ですが、自分たちが暮らす南陽市にいるかのように、居心地がとても良かったのだと思いました。

二つ目は、戦争についてです。私達はこのセミナーで、首里城公園、轟壕、平和祈念公園で、戦争・平和について深く学んできました。その中でも私が一番心に残ったのは轟壕です。少しの明かりで暮らし、食料や水がなく、取りに行けば米兵に殺されると話をお聞きしました。米兵に捕まる前に死を選ぶことを教えられ、集団自決する人もいたとも聞きました。自分から命を落とすということは、私には想像もできません。声を出しても、食料をとりに行っても殺される昔とは異なり、今の世界は戦争もなくとても平和です。ですが、現代にはいじめ問題や、殺人など、命を簡単に奪う行為もあります。それはきっと昔の出来事を知らないからだだと思います。簡単に命を落としたり、命を奪う者がいたりするとすれば、私達が今から戦争の悲しさと、命の大切さを教えていくべきだと思いました。

三つ目は、文化・歴史の違いです。沖縄戦や、アメリカに支配されていたこともあり、学校に入るときは外履きのままだったり、アメリカのアイスがあつたりするなど、同じ日本なのに、ここまで文化が違うのかと、とても驚きました。歴史では、日本で唯一地上戦が行われた沖縄戦があり、山形県では見られないような壕やガマ、そのほかにも平和に関する建造物がたくさんありました。そこを訪れたとき、戦争の悲しさや、とても複雑な感情がこみ上げてきました。私は、これをきっかけに歴史や文化の違いについてもっと関心を持っていきたいです。

私が今回のセミナーで学んだことは、「平和の大切さ」「命の大切さ」とともに、今を一生懸命生きることの大切さを今の社会、これからの社会に向けてみんなに伝えることだと思います。沖縄に住む人が戦争をどう思っているのか、自分達がどれほど幸せなのかという考えを伝え、これからの生活に生かしていきます。

挑戦した三日間

南陽市立宮内中学校 2年

僕は、この地域間交流セミナーで様々なことを、肌で体験し学べた三日間だったと思います。また、このセミナーは何もかも初めての体験でした。

まずは、南陽市役所から仙台空港に行き飛行機に乗りました。飛行機は初めてだったので、エンジン音が聞こえて機体が上がった時にかかる重力は、今までには体験したことのない何ともいえないものでした。三時間ほどで那覇空港に着いた時は、とても暑かったです。このセミナーの大切な所で南陽市とは違うというところを初めて体感しました。その後、首里城に行きました。僕は、歴史が好きなので、首里城のことは知っていたのですが、やっぱり生で見ると沖縄県だなと感じられました。また、バスガイドさんの説明がとても詳しくて、琉球時代の沖縄県の心の温かさを感じられたような気がしました。この日はホテルに行き明日に備えていました。二日目は、僕がこのセミナーで一番大事にしている戦争のことについて学びました。最初に轟壕に行きました。この轟壕の中に入って明かりを消した時、僕は何とも言えない気持ちになりました。暖かくて周りは何も見えず真っ暗。このような場所で生活していると人が人ではなくなると聞きました。戦争がどれだけ怖かったか、今、僕達が生きている時代はどれほど恵まれているのかということを感じることができました。平和祈念公園でも戦争について考えさせられました。ここでは、いろいろな写真があって、ここでもつらい気持ちになりました。

兼城中学校との交流では、はじめは緊張しましたが、自分達から話してみると、とても楽しく沖縄の郷土料理について学びました。米軍基地のことも、中学生目線で話して、怖いや戦争は絶対にダメだということも聞き、米軍基地のことについて関心を持つことができました。それにとても楽しい話し合いになって良かったです。この交流が終わり、緊張も少しずつ取れていた所で民泊の方と会いました。僕は、玉那覇さんの家に一泊させていただきました。車の中や、家に行っても楽しく話せて、沖縄の方の温かさを感じました。また、玉那覇さんの家で空手を体験しました。空手は、武術もそうだけど、心の部分でも鍛えられました。食文化も全然違って、ゴーヤチャンプルや人参しりしりなどの伝統料理を食べることができ、とてもおいしかったです。とても充実したし、伝統を学ぶことのできた民泊でした。三日間の日程も終わり、飛行機で帰り、南陽市に着きました。短かったけど、楽しくてとても充実した三日間でした。

僕は、このセミナーを通して、学んだことがあります。それは挑戦することです。このセミナーでは、様々なことに挑戦しました。挑戦は、少しの勇気と行動力があればできます。その少しの勇気という部分をこのセミナーを通して学び、一生の宝物にできました。

つながいを感じながら

南陽市立宮内中学校 2年

私は今回の交流セミナーを通してたくさんのことを学びました。

このセミナーに参加するまで、私は沖縄のことを「戦争のあった悲しい国」と思っていました。しかし、それは少し違っていたのです。沖縄県は確かに戦争によって大きな傷を負いました。ですが、沖縄の人達はそこで終わりにせず、懸命に生きていたという話を聞きました。戦争のおそろしさを今なお伝え、もう二度と同じことが起こらないように頑張っているのです。

沖縄県の糸満市へ行き、初めて会った人の家に泊まりました。私は、緊張のあまり自分から話しかけることができませんでした。そんな私に対して、民泊のお父さんやお母さんはどんどん話しかけてくれました。心が温かくなり、とてもうれしかったです。たったの一泊という時間の中で、沖縄の人の温かさやたくさんの方に出会うことができました。

そして、私が一番心に残っているのは、兼城中学校さんとの交流会です。私達とは全く違う環境で生きている同世代の人。普通に生活していればきっと出会うことのなかった人達。事前学習を通して、深めてきた南陽市と糸満市の違いについてそれぞれの班で話し合うことができました。はじめはぎこちなかった会話も、次第に打ち解け笑い声も飛び交うようになりました。私の班では食文化を中心に話し合ったのですが、その地方独特の食べ物や郷土料理がたくさんあり、驚きました。明るく、充実した交流会になってとても良かったです。そして最後に雪を渡した時に全員がよろこんでくれてホっとしました。私達にとっては当たり前で、むしろ降ってほしくないとすら思う雪でこんなに喜んでもらえるのだなと感じました。

新しいことやものに触れて思うことがたくさんありました。教科書でしか知らなかった沖縄県に来られて本当によかったです。今回の交流セミナーではたくさんの方達と関わりながら成長することができました。ガイドさん、民泊のお父さんお母さん、兼城中学校のみなさん、先生方。書ききれないほどたくさんです。そして一番近くにいた、セミナー参加者の十一人。何とも言えない絆が生まれました。

戦争について学ぶ上でも、誰かが教えてくれる。このセミナーに参加するのにも、たくさんの方がいたから参加することができました。私は、私達は、誰かとつながりながら生きています。親や兄弟がいないのが当たり前。そんな時代に触れることで今の生活にあらためて感謝することができました。一つ一つのつながりを大事に、日々を過ごしていきたいです。

「いちゃいばちょーでー」の心

南陽市立宮内中学校 教諭 佐藤 陽子

人との関わりとリアルな体験。それが生徒たちの成長、そして「自立」を促す上で大切なことを今回の地域間交流セミナーに参加させて頂き、改めて学ぶことができました。

生徒たちと初めて顔を合わせた時から一貫して伝えてきたのは、この機会を通してどんなことにも失敗を恐れず、「自分から」積極的に取り組んで欲しいということでした。

初めはよそよそしかった十二名も、事前研修会で沖縄での活動のイメージ、兼城中学校生との交流会について話し合いを重ねる度に、共に創り上げていく仲間という意識が芽生え、より良いセミナーにしたいという思いも少しずつ強くなっていきました。

生徒達の劇的な変化と成長を感じた二日目。轟壕に自分の足で入り、ガイドの方から当時のお話をお聞きし、暗闇を体験したこと。亡くなった方の名前が彫られたおびただしい数の礎や現在も残っている不発弾、当時の映像などを目の当たりにした平和祈念資料館で時間ギリギリまで見学する生徒の姿。実体験したからこそ、沖縄の方々にとって戦争はまだ終わっていないことを考えることにつながったのだと思います。午後からの兼城中学校生との交流会で短い時間ながら繰り広げられた本音トーク。食文化、言葉、平和などあらかじめ準備してきた話題以上に率直な話ですぐに打ち解け、時間が足りないという声上がる位、山形と沖縄の違いに驚いたり感心したり有意義な時間となりました。お別れ会で山形の雪をプレゼントした瞬間、普段自分達が見慣れている雪に感動し、大喜びした兼城中生が、バスが見えなくなるまで見送ってくれた時、人の心を動かすのは「人との関わり」であることを改めて実感させられました。

少々緊張しながら民泊体験に出かけていった生徒達。郷土料理づくりや三線体験、海での朝食や貝殻拾いなど、我が子のように接して下さったお父さん、お母さんの姿に心を強く動かされたようでした。

今回のセミナーから一番感じたのは、沖縄の方々の「いちゃいばちょーでー」の心でした。「人を変えてしまう」戦争について直接沖縄の方々からお聞きし、その体験が沖縄の方々の人となりを形作っているのではないか、ということがまとめの研修会の中で、どの生徒からも出されました。そして「自分から」感じたことを発信したいという思いにもつながっていきました。訪れた人への温かさや優しさ、沖縄を知って欲しい、伝えたいという熱い思い。それらを沖縄の地に足を運び、自らの目で見たり耳で聞いたり触れ合ったりしたからこそ、実感を伴うものとして感じ生徒たちにとって確かな成長につながる貴重な機会になったのではないかと思います。今回引率させて頂き学んだことを、これから生徒達との関わりの中で活かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

